



70

# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年9月5日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



大橋尚也さん（右）が2012年、父親と高尾山に登った時に一緒に撮った写真＝大橋さん提供

## ヤングケアラーからの伝言

10日(金)＝暮らしナビ面

家族の介護や世話を担う子ども「ヤングケアラー」。過度なケア負担は、心身の健康に影響を与えたり、遊ぶ時間や部活動など子ども

ならではの時間を制約したりします。元ヤングケアラーの大橋尚也さん（27）は中学時代から、若年性認知症を患う父親のケアを担いました。

大橋さんの体験と、ケアの渦中にいる若者に送る彼のメッセージを2回に分けてお届けします。



## TOKYO2020が残したもの

7日(火)＝社会面

コロナ禍で東京五輪・パラリンピックが開かれました。大会はこの社会に何を残したのか？ 2019年末に始まった企画「TOKYOスイッチ」では、大会が社会を変える「スイッチ」になるのではないかとこの視点から、課題

を掘り下げてきました。多様性と調和を示したパラリンピックの開会式、新風を吹き込んだスケートボード＝写真＝、ジェンダー平等と向き合う選手――。最終部の第6部では、大会が人々の意識や価値観に与えた影響を3回に分けて描きます。



迫る

## 元特捜部長の背負った「十字架」

5日(日)＝1, 3面

大阪地検の元特捜部長、大坪弘道さん。写真には2010年に発覚した証拠改ざん・隠蔽（いん・ぺい）事件を巡って犯人隠避罪に問われ、13年に執行猶予付きの有罪判決が確定しました。執行猶予期間の終了で法曹資格が回復するのに合わせ、

大坪さんは「今一度、法曹として社会に貢献したい」と大阪弁護士会に登録を申請しました。しかし事件の影響は大きく、弁護士への道は険しいものでした。「十字架」を背負った元特捜部長の心の変遷に迫ります。

## 東京医師会の尾崎会長に聞く

7日(火)＝夕刊特集ワイド

特集ワイド

全国の新型コロナウイルスの累計感染者数は150万人を突破し、とりわけ東京都内では8月以降の新規感染者が急拡大中です。減少傾向に転じているとはいえ、いまも病床が足りず、自宅療養者は

急増しています。「ちょびひげ」でおなじみの東京都医師会の尾崎治夫会長（70）＝写真＝は「ワクチンを打てばいずれ感染は収まる、という希望的観測が崩れた」と危機感を募らせています。



## 竹橋の窓辺から

編集後記



先週の「記事すぎ」でお伝えした池袋暴走事故の判決が2日言い渡されました。警視庁を担当していた頃から、事故で妻を失った松永拓也さんがこの2年半、悩み苦しむ姿を見てきました。そして、90歳の祖父がどうして運動免許を手放したのか、深くも感じていました。多くの方の記事を読んでも、高年齢ドライバー、家族の1人として、問題解決を探っていきたく思います。（山本有紀）

新毎日

150  
2022年2月21日  
毎日新聞創刊150年